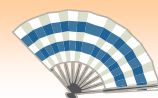


教材開発例 1 「みぶの花田うえ」



〔小学校低学年 主題：町のじまん 内容項目：4の（5）〕

壬生の花田植は、山県郡北広島町（旧千代田町）で、毎年6月の第1日曜日に豊作を願って行われる伝統行事である。

現在、西日本に残る花田植えとしては最大の規模を誇り、その歴史の深さにより、昭和51年には、国指定重要無形民俗文化財に認定された。また、平成21年には、ユネスコの無形文化遺産候補に選ばれた。



（1）素材の収集・選定



集めてみよう

山県郡北広島町は、豊かな自然と伝統文化にあふれる地域である。地域に根ざした道德の資料となりうる素材について、北広島町内の小学校の道德教育推進教師に協力を求めた結果、素材として「テングシデ（大朝地区）」、「オオサンショウウオ」、「神楽」、「壬生の花田植」などが集まった。

その中で、「壬生の花田植」は、中世から続く伝統芸能として、ユネスコ世界無形文化遺産への推薦が決定しており、その保存や振興の機運が高まる素材である。また、地域の人たちのつながりによって昔と変わらずに続けられてきている田植えの終わりを祝う祭りであり、地域の方の参加・協力も得やすい。これらのことから、「地域への愛着をもたせる」という観点で、小学校低学年対象として「壬生の花田植」を資料の素材として選定することとした。

（2）情報の収集



探してみよう

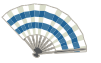
○ 資料・パンフレット

北広島町の役場に出かけ、壬生の花田植に関する配布物などを探した。観光客向けのパンフレットが作成されており、壬生の花田植のいわれや「田植歌」「サンバイ」「早乙女」などの説明が掲載されていた。

町の広報誌には、世界無形文化遺産への推薦が決まったことによる特集記事が掲載され、花田植の説明や祭りの様子・花田植の保存に向けた地域や地元小学校の取組みが紹介されていた。また、実際に花田植を行っている田楽団のメンバーやこれまで花田植の保存に取り組んできた人へのインタビューが掲載されており、花田植を受け継いでいる人々のこれからも大切に受け継いでいきたいなどの花田植に対する思いが述べられていた。

○ 郷土資料

町道德教育推進協議会の研修で、芸北民俗芸能保存伝承館を訪ねた。そこでは、実際に祭りに使われる道具や衣装を見ながら、壬生の花田植のおこりや特徴について詳しく話を聞くことができた。さらに、壬生の花田植についての詳しいビデオやテレビで放映された映像などを見ることもできた。何十年も前の映像であっても、同じ衣装を身につけ、同じ歌を唄って踊っていることが分かり改めて、長い年月をかけて壬生の花田植が伝承されてきていることが分かった。



○ 地域の関係者

町道德教育推進協議会の研修会で、中学校の先生が保存会の方に会って取材をしているビデオを見ることができた。「地域の先輩方の中に入って、話をしたり練習をしたりする中でたくさんのことを教わってきた。」という旨のことが語られており、壬生の花田植の傳承が、地域のコミュニティの絆づくりや人々の楽しみの一つとして、長い年月に渡り続いてきたことを感じることもできた。

○ 情報ネットワーク

町教育委員会の協力をいただき、文化庁に提出した壬生の花田植の紹介DVDの提供を受けることができた。祭りの様子について短くまとめられており、壬生の花田植の様子を映像を通して詳しく知ることができた。

(3) 読み物資料の作成



書いてみよう

① 主題やねらいを決定する

小学校解説には、郷土愛について、「郷土とのかかわりに関するものであり、郷土の伝統と文化を大切に、郷土を愛する心をもった児童を育てようとする内容項目である。(中略)自分の育った郷土は、自己の形成に大きな役割を果たすとともに、一生にわたって大きな精神的な支えとなるものである。郷土との積極的で主体的なかかわりを通して、郷土を愛する心を育て、郷土をよりよくしていこうとする態度を育成する必要がある。」とある。低学年の段階においては、「郷土の自然や文化に触れ、人々との触れ合いを深めることで、郷土への愛着を深め、親しみをもって生活できるようにすることが大切である」とあり、「こころのノート」の関係ページには、キーワードとして、「あなたが そだつ 町」「わたしを そだてる 町」が示されている。

これらを確認し、「壬生の花田植」を素材として、資料を作成していくに当たっては、児童が、自らの住む北広島町に素晴らしい祭りあることに気づき、自分の住む町の良さについて考え、大切に思う心情を育てることが大切であると考えた。

② 対象となる学年の発達段階や特性を把握する。

小学校低学年は、遊びや生活科などの学習を通して、家庭や学校を取り巻く郷土に目が向けられるようになる段階である。「壬生の花田植」については、見に行ったことがあり、地域の祭りとして知っているという実態である。また、「壬生の花田植」が、文化財としての価値がとても高いが、低学年の児童にとってその内容や価値を十分に理解するのは難しいため、「たくさんの人々が力を合わせて太鼓をたたき、苗を植える長年続いてきた素晴らしい祭りがある。」という点に絞って資料とし、祭りや地域に対する愛着を育てていきたいと考えた。

③ 登場人物や状況の設定する

〔具体的な場面設定と登場人物〕

主人公は、学習する児童の実態に近いものとするために、花田植を以前から知っているが、その価値については気づいていないという設定とした。また、以前から知っている花田植には、世界的にも認められるくらい素晴らしい価値があるということを主人公に感じさせたいと考え、アメリカ人であるトーマス先生を理想的な人物として登場させた。先生という職業にしたのは、児童にとって身近な大人であること、一般に低学年の発達の段階の価値判断基準となるのは、教師であることが多いことからである。



○日時 壬生の花田植の日（6月の第1日曜日）

○場所 花田植の会場

○主人公 小学校2年生の女の子（私）、北広島町在住

- ・ 家族と小さいころから花田植に来ている。
- ・ 壬生の花田植が好きである。しかし、それは多くの屋台があり、買い物をするのが楽しいからである。（花田植のことをよく知らず、見ることにはそれほど興味をもっていない）

○理想的な人物 トーマス先生

- ・ アメリカからやってきている英語助手の先生
- ・ 日本の伝統文化に興味をもっている。
- ・ 壬生の花田植についてアメリカにいるころからホームページを見て知っている。
- ・ くわしく花田植の素晴らしさについて私に話をする。

○その他 みよ子

- ・ 私の同級生であり、同じようにたくさんの屋台があるお祭りが好き。

④ 中心場面（山場）を決め、大まかな起承転結を設定する

トーマス先生の話聞いて花田植の価値に気付く場面を中心場面とし、起承転結を設定した。

	起	承	転	結
場面のイメージ絵				
絵の説明	私は昔から壬生の花田植が好きで家族と毎年行っている。	友だちのみよ子に出会い、一番楽しみにしていた買い物（露店屋台）の方に行って買い物をしている。	田んぼで花田植を見ていたトーマス先生に会う。トーマス先生から花田植の素晴らしさについての話を聞いて、壬生の花田植の素晴らしさに気づく。	花田植が終わり、学校に行ったら、友だちに壬生の花田植のすばらしさ話をしてあげたいなと感じる。

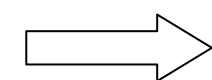
4コマ場面絵

⑤ 場面分けをもとに文章化する

⑥ 不要な文章や文言を削除する

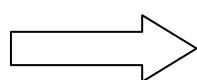
推敲の流れ

初稿



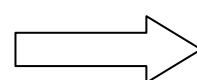
資料としての要件を満たすための改善

第二稿



ねらいが焦点化された資料とするための改善

第三稿



発達の段階を考慮し、資料の内容を明確に伝えるための改善

最終稿



初稿

私のじまん ～壬生の花田植～

私の町には「壬生の花田植」というお祭りが 있습니다。これは、6月の最初の日曜日にあります。私はこの1年に1回だけある、このお祭りが大好きです。だから、毎年、家族みんなで出かけています。

会場について私は、わくわくして、楽しみでたまりません。私は、家族と一緒に田んぼの近くまで行って花田植を見ました。きれいな飾りをつけた牛が何頭もいて、ゆっくりと田んぼの中を歩いて行きます。白いふさふさのついたバチをもった男の人はくるくるとバチを回しながら太鼓をたたいて踊っています。そして、笠をかぶった女の人たちは歌を歌いながら田んぼに苗をどんどん植えていきます。とてもにぎやかな楽しいお祭りです。すると同じクラスの美代ちゃんに会いました。会場には金魚すくいや、わたがしの屋台のお店も出ています。「ねえねえ、お店を見て回ろうよ!」といわれた私は、手をつないで走って、屋台に行きました。

屋台を見ているうちに、田んぼの角の方に、英語を教えてくれているトーマス先生を見つけました。トーマス先生は、カメラを持ってにこにこしながら花田植を見ていました。

「こんにちは、トーマス先生。」

「こんにちは、素晴らしいお祭りだね。昔々の日本の人の様子がよく分かるよ。」

「先生も、このお祭りが好きなの。」

と聞くと、

「このお祭りはね、世界の宝物の中にも選ばれているんだ。アメリカにいるときから見てみたかったんだ。」

と話してくれました。私はそれを聞いて、うれしくなりました。

そして、私も美代ちゃんも花田植の続きを一生懸命見ました。

田んぼいっぱい苗が植えられ、お祭りが終わりました。見に来ていた、たくさん集まっていた人たちもつぎつぎに帰って行きました。明日、学校に行ったら壬生の花田植のことを友だちに話してあげようと思っています。

第2稿

資料としての要件を満たすための改善

第2稿	改善点及びその理由
私の町の宝物 ア ～壬生の花田植～ 私の町には「壬生の花田植」というお祭りが 있습니다。これは、6月の最初の日曜日にあります。毎年、家族みんなで出かけています。<u>私はこの1年に1回だけある、このたくさんの屋台が出るお祭りが、大好きです。</u> イ	ア 構成チェック票（例）項目⑥ 「子どもの多様な考えが引き出せるものであるか」 郷土の大切なものであるということを意識させるために、題を「私の町の宝物～壬生の花田植～」に変更した。また、会話部分の「この町には素敵な宝物があるね」「世界の宝物の中にも選ばれている」という表現にも通じさせた。



会場には金魚すくいやわたがしの屋台のお店も出ています。会場について私は、わくわくして、楽しみでたまりません。私は、最初に家族と一緒に田んぼの近くまで行って、花田植を見ました。

この「壬生の花田植」は、きれいな飾りをつけた牛が出てきたり、太鼓に合わせて着物を着た人たちが田植えをするのを見るお祭りです。しばらくすると同じクラスの友だち **ウ** に会いました。「ねえねえ、お店を見て回ろうよ！」といわれた私は、「うん、行こう！行こう！」と手をつないで走って、屋台に行きました。屋台の方に行くと、私たちと同じように、お祭りに来た友だちが何人もいました。私もみんなと夢中で買い物をしていました。 **エ**

ふと田んぼのほうを見ると、田んぼのすぐそばで、英語を教えてくれているトーマス先生を見つけました。私は、みんなと離れてトーマス先生のほうに走って行きました。 **ウ** トーマス先生は、カメラを持ってにこにこしながら花田植を見ていました。

「こんにちは、トーマス先生。」

「こんにちは、この町には素敵な宝物があるね。素晴らしいお祭りだね。昔々の日本人の様子がよく分かるよ。君たちが生まれるずっと前から、900年も前からやっているんだそうだよ。」

「900年！」

「しかも、こんなにたくさんの人が集まって、昔の人たちと同じようにやっているのはここしかないんだよ。」

「先生も、このお祭りが好きなの。」

と聞くと、

「このお祭りはね、世界の宝物の中にも選ばれているんだ。アメリカにいるときから見てみたかったんだ。」

と話してくれました。私はそれを聞いて、うれしくなりました。

それから私は花田植の続きを夢中で見ました。 **エ**

きれいな飾りをつけた牛が何頭もいて、ゆっくりと田んぼの中を歩いて行きます。白いふさふさのついたバチをもった男の人はくるくるとバチを回しながら太鼓をたたいて踊っています。そして、笠をかぶった女の人たちは歌を歌いながら田んぼに苗をどんどん植えていきます。とてもにぎやかな楽しいお祭りです。 **オ**

田んぼいっぱい苗が植えられ、お祭りが終わりました。見に来ていた、たくさん集まっていた人たちもつぎつぎに帰って行きました。終わると少しさみしくなりました。明日、学校に行ったら、屋台で買い物をしていた友だちに「私の町の宝物」のことを話してあげたいなと思いました。

イ

構成チェック票（例）項目③

「子どもの発達段階に対応した構造と内容をもつものであるか」

主人公の祭に対する思いをはっきりとさせておくために、「このお祭りが大好きです」の「この」の部分を「たくさんの屋台が出る」と変更した。

ウ

構成チェック票（例）項目③

「子どもの発達段階に対応した構造と内容をもつものであるか」

主人公は私であるので、美代ちゃんを登場させて、最後まで主人公と一緒に行動させる必要性がなく、また、主人公と混同してしまう可能性があるため、美代ちゃんを「友だち」と表記するだけにとどめた。

それに伴い、主人公は、トーマス先生に気が付き友だちと離れて一人で先生のところに行って話を聞くように変更した。また、終末に出てくる私がよさを伝えたい相手を、ずっと買い物をしていた花田植を見ていなかった友だちにしよう変更した。

エ

構成チェック票（例）項目⑥

「子どもの多様な考えが引き出せるものであるか」

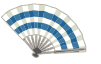
主人公が「夢中」になっているものが、「買い物」から「祭りをみること」へ変化したことを対比しやすくするための表現を加えた。

オ

構成チェック票（例）項目②

「子どもの心に訴えるものであるか」

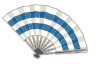
主人公の夢中で見ている様子や花田植の素晴らしさをより伝わりやすくするため、前半に詳しく書いていた花田植の様子について、前半は、簡単な記述にとどめ、後半部分に詳しく記述するよう変更した。



第3稿

ねらいが焦点化された資料とするための改善

第3稿	改善点及び理由
<u>～壬生の花田植～</u> カ ひろ子 キ の町には「壬生の花田植」というお祭りが 있습니다。これは、6月の最初の日曜日にあります。毎年、家族みんなで出かけています。ひろ子はこの1年に1回だけある、このたくさんの屋台が出るお祭りが、大好きです。 会場には金魚すくいや、わたがしの屋台のお店も出ています。会場についたひろ子は、わくわくして、楽しみでたまりません。ひろ子は、最初に家族と一緒に田んぼの近くまで行って、花田植を見ました。この「壬生の花田植」は、きれいな飾りをつけた牛が出てきたり、太鼓に合わせて着物を着た人たちが田植えをしたりするのを見るお祭りです。しばらくすると同じクラスの友だちに会いました。「ねえねえ、お店を見て回ろうよ!」といわれたひろ子は、手をつないで走って、屋台に行きました。屋台の方に行くと、ひろ子たちと同じように、お祭りに来た友だちが何人もいました。ひろ子もみんなと夢中で屋台を見て回りました。 ふと田んぼのほうを見ると、田んぼのすぐそばで、英語を教えてくれているトーマス先生を見つけました。ひろ子は、みんなと離れてトーマス先生のほうに走って行きました。先生は、カメラを持ってにこにこしながら花田植を見ていました。 「こんにちは、トーマス先生。先生もお祭りに来たのですか。」 「そうだよ。ずっと楽しみにしていたんだ。ひろ子さんもこのお祭りが好きかい。」 「ええ大好き。このお祭りは、たくさんの人が来て、お店もあってとっても楽しい。先生は、何を買ったの?」 「僕は、何も買っていないよ。踊りを見に來ただけだよ。」 「えっ。それだけ?」 ク トーマス先生はにこにこしながら話してくれました。 「そうさ。花田植を見るのはとても楽しいよ。すごい秘密があるんだから。」 「どういうこと?」 「この壬生の花田植にはね、お米をみんなで心を合わせて、一生懸命作ってきた日本の人の様子やすばらしさが入っているんだよ。」 ケ 「へえ。そんなにすごい?」 トーマス先生は、手を広げながら大きな声で楽しそうに話してくれました。 「いいかい。壬生の花田植はね、ずっと残しておきたい世界の宝の一つにも選ばれていて、アメリカにいたときから見てみたかったんだ。それがこの北広島町にあるんだよ。それを900年も昔から、町の人たちで教えあって、花田植をやっているそうだよ。」 「900年も!」	カ 構成チェック票(例)項目⑥ 「子どもの多様な考えが引き出せるものであるか」 低学年の児童にとって、「宝物」とはゲームであったり、思い出の品であったりするなど、有形なものとしてのとらえ方が強い。また、自らの住む地域に目を向け、場所や人々のつながりを、広げていくことがかえって困難になると考え、宝物というキーワードの設定をやめ、題も「壬生の花田植」と再度、変更した。 キ 構成チェック票(例)項目③ 「子どもの発達段階に対応した構造と内容をもつものであるか」 実際の授業において、発問などを分かりやすくするために、主人公の名称表記を「私」から「ひろ子」に変更した。 ク 構成チェック票(例)項目④ 「登場人物の取り合わせとやり取りに無理がないか」 主人公とトーマス先生との会話は、すぐに本題に入るようにしていたが、自然な流れになるように、やり取りを増やした ケ 構成チェック票(例)項目③ 「子どもの発達段階に対応した構造と内容をもつものであるか」 トーマス先生は、壬生の花田植の素晴らしさについて語るようにしている。その多くが、900年間受け継がれている、日本人の米づくりの様子が分かる、世界無形文化遺産に選ばれているという知識面である。 しかし、児童の発達の段階、既習の内容から考えて、これらが壬生の花田植の素晴らしさだと認識することは難しいため、知識面も残しつつ、「この町の人々は、力を合わせて米を作ったり、壬生の花田植を続けてきたりしてきた」ことに重点を置くよう、会話を加えた。



「そうだよ、この町の人は、900年も前から、田植えの仕事が終わりになるのを
祝いで、みんなで力を合わせてこの1年に1回のお祭りをずっと続けてきた
んだよ。」 ケ

ひろ子は目を丸くしました。そして、田んぼの方に顔を向けました。

色とりどりのきれいな飾りをつけた牛が何頭もいます。ゆっくりと田んぼの
中を歩いて田植えができる準備をしています。すると、男の人が、合図を出し
ながら歌を歌い出しました。笠をかぶった女の人たちは、それにあわせて一斉
に歌を歌います。そして、みんなで苗をどんと植えていきます。白いふさ
ふさのついたバチをもった男の人はくるくるとバチを回し、太鼓をたたいて踊
っています。たくさんの人がやっているのに動きがぴったりとそろっているの
です。苗を植えている女の人、太鼓をたたく男の人たちもみんな一生懸命で、
中には、汗をかいている人もいました。 コ

見ているお客さん達も笑顔でその様子を見えています。カメラで写真を撮って
いる人たちもいます。トーマス先生は、笛の音にあわせて体をゆらしています。
ひろ子は花田植の続きを夢中で見ていました。 サ

田んぼいっぱい苗が植えられ、お祭りが終わりました。気がつくと、ひろ子
は、立ち上がって誰にも負けない大きな拍手をしていました。 シ

コ

構成チェック票（例）項目⑤
「適切な状況を設定しているか」

「この町の人々は、力を合わせて米を作ったり、壬生の花田植を続けてきたりしてきた。」ということ
をより感じさせるため、後半の花田植の描写の部分に、踊っている人のがんばりや協力の様子が伝わるような表現を加えた。

サ

構成チェック票（例）項目⑥
「子どもの多様な考えが引き出せるものであるか」

多くの人たちが花田植を好きだということを感じさせるため、主人公とともに花田植を見ているお客さんたちやトーマス先生の様子を加えた。

シ

構成チェック票（例）項目⑦
「叙述によく具象性を与えているか」

「明日、学校に行って友だちに話す」という内容を削除し、主人公の心情の変化を大きな拍手をしている様子だけで描くように変更した。

最終稿

発達の段階を考慮し、資料の内容を明確に伝えるための改善

最終稿	改善点及び理由
ス ※全体の変更 ～みぶの花田うえ～ ひろ子の町には「みぶの花田うえ」というおまつりが、6月のさいしょの日よう日にあります。きれいなかざりをつけたうしが出てきたり、きものをきた人たちが、たいこにあわせて田うえをしたりするおまつりです。ひろ子はまい年、かぞくみんなで出かける、このおまつりが大好きです。 おまつりには金ぎょすくいや、わたがしのおみせも出ています。ひろ子は、わくわくしてたまりません。かぞくといっしょに田んぼのちかくまで行って、花田うえを見ようとしました。すると、おなじクラスのともしだちがやってきて「ひろ子ちゃん、おみせを見てまわろうよ。」 といいました。ともしだちと手をつないだひろ子は、はしって、おみせにいきました。	ス 構成チェック票（例）項目③ 「子どもの発達段階に対応した構造と内容をもつものであるか」 全体的な文章の見直しを行い、最低限の文章量で児童が状況を把握できるよう、短く簡潔な表現とした。 使用する漢字を低学年の児童にとって適切なものだけにした。



た。そこには、ともだちがなん人もいて、ひろ子はむちゅうでおみせを見てまわりました。

田んぼのほうを見ると、えいごをおしえてくれているトーマス先生がいました。ひろ子は、みんなとはなれてトーマス先生のほうにはしっていきました。先生は、一ばんまえで花田うえを見ていました。

「こんにちは、トーマス先生。先生はおみせにいかないの？」

「ぼくは、なにもかわないよ。このおまつりを見に来たんだよ。」

「えっ。それだけ？」 **セ**

トーマス先生は、にこにこしながらはなしてくれました。

「そうさ。ぼくは、花田うえを見るのがずっとたのしみだったんだ。」

「どうしてそんなにたのしみなの？」

「それはね、このおまつりには、すごいひみつがあるからさ。」

「どういうこと？」

「このみぶの花田うえを見るとね、日本の人たちが、むかしからおこめをみんな
でこころをあわせてつくってきたことがわかるんだよ。」 **ソ**

「へえ。そんなにすごいの？」

トーマス先生は、手をひろげながら大きなこえでたのしそうにはなしてくれました。

「いいかい。みぶの花田うえはね、ずっとのこしておきたいせかいのたからの一つにもえらばれていて、アメリカにいるときから見てみたかったんだ。それがひろ子ちゃんのすんでいるこのきたひろしま町にあるんだよ。それを900年もむかしから、町の人たちでおしえあって、やってきているそうだよ。

「900年も！」

「そうだよ、この町の人、900年もまえから、田うえのしごとがおわりになるのをおいわいして、みんなで力をあわせて、この一年に一かいのおまつりをずつとつづけてきたんだよ。」

ひろ子は目をまるくしました。そして、田んぼのほうにかおをむけました。

いろとりどりのきれいなかざりをつけたうしが、なんともいます。ゆっくりと田んぼの中をあるいて田うえができるじゅんぴをしています。すると、男の人が、あいずを出しながらうたをうたい出しました。かさをかぶった女の人たちは、それにあわせていっせいにうたをうたいます。そして、みんなでなえをどんどんうえていきます。白いふさふさのついたバチをもった男の人、はくるくるとバチをまわし、たいこをたたいておどっています。たくさんの人がやっているのにごきがびったりとそろっているのです。なえをうえている女の人、たいこをたたき男の人たちもみんないっしょうけんめいで、中には、あせをかいている人もいました。

気がつくといろ子は花田うえをむちゅうで見えていました。 はっとしてまわりを見てみると、 **タ** おきやくさんたちもみんなむちゅうで花田うえを見ています。カメラでしゃしんをとっている人たちもいます。トーマス先生は、ふえの音にあわせてからだをゆらしています。みぶの花田うえを見ているたくさんの人たちは、どの人もみんなうれしそうです。ひろ子にはっこりとしました。 **チ**

セ

構成チェック票（例）項目⑤

「適切な状況を設定しているか」

主人公（ひろ子）とトーマス先生の会話の中で、ひろ子は買い物、トーマス先生は花田植を見ることが楽しみにしているということがはっきり分かるように会話の表現を変更した。

ソ

構成チェック票（例）項目③

「子どもの発達段階に対応した構造と内容をもつものであるか」

低学年の児童にとって分かりやすい表現とするため、会話を文に変更した。

タ

構成チェック票（例）項目⑤

「適切な状況を設定しているか」

主人公の内面的な心の動きを強調するために副詞句を使用した表現を加えた。

チ

構成チェック票（例）項目⑦

「叙述によく具象性を与えているか」

ひろ子が「この町に花田植があって良かった。」という心情でいるということをさらに強く児童に感じさせるため、転の部分後半に、「壬生の花田植を見ているたくさんの人たちは、どの人もみんなうれしそうです。ひろ子にはっこりとしました。」を加えた。



田んぼいっぱいになえがうえられ、おまつりがおわりました。気がつく、ひろ子は、立ち上がってだれにもまけない大きなはく手をしていました。そして「あした、学校にいったら、おみせにいて花田うえを見ていなかったともだちに花田うえのことをいっぱいはなしてあげよう。」 ツとおもいました。

ツ

構成チェック票（例）項目⑥
「子どもの多様な考えが引き出せるものであるか」

児童が主人公になりきって考えを深めることができるように学校に行ったら友だちに花田植のことを教えてあげようとする場面を再度加えた。

～みぶの花田うえ～

ひろ子の町には「みぶの花田うえ」というおまつりが、六月のさいしょの日よう日にあります。きれいなざりをつけたうしが出てきたり、きものをきた人たちが、たいこにあわせて田うえをしたりするおまつりです。ひろ子はまい年、かぞくみんなで出かける、このおまつりが大すきです。

おまつりには金ぎょすくいや、わたがしのおみせも出ています。ひろ子は、わくわくしてたまりません。かぞくといっしょに田んぼのちかくまで行って、花田うえを見ようと思いました。すると、おなじクラスのともだちがやってきて

「ひろ子ちゃん、おみせを見てまわろうよ。」

といいました。ともだちと手をつないだひろ子は、はしって、おみせにいきました。そこには、ともだちがなん人もいて、ひろ子はむちゅうでおみせを見てまわりました。

田んぼのほうを見ると、えいごをおしえてくれているトーマス先生がいました。ひろ子は、みんなとはなれてトーマス先生のほうにはしっていきました。先生は、一ばんまえで花田うえを見ていました。

「こんにちは、トーマス先生。先生はおみせにいかないの？」

「ぼくは、なにもかわないよ。このおまつりを見に来たんだよ。」

「えっ。それだけ？」

トーマス先生は、にこにこしながらはなしてくれました。

「そうさ。ぼくは、花田うえを見るのがずっとたのしみだったんだ。」

「どうしてそんなにたのしみなの？」

「それはね、このおまつりには、すごいひみつがあるからさ。」

「どういうこと？」

「このみぶの花田うえを見るとね、日本の人たちが、むかしからおこめをみんなでころをあわせてつくってきたことがわかるんだよ。」

「へえ。そんなにすごいの？」

トーマス先生は、手をひろげながら大きなこえでたのしそうにはなしてくれました。

「いいかい。みぶの花田うえはね、ずっとのこしておきたいせかいのたからの一つにもえらばれていて、アメリカにいたときから見てみたかったんだ。それがひろ子ちゃんのすんでいるこのきたひろしま町にあるんだよ。それを900年もむかしから、町の人たちでおしえあって、やってきているそうだよ。」

「900年も！」

「そうだよ、この町の人、900年もまえから、田うえのしごとがおわりになるのをおいわいして、みんなで力をあわせて、この一年にいかいのおまつりをずっとつづけてきたんだよ。」

ひろ子は目をまるくしました。そして、田んぼのほうにかおをむけました。



いろとりどりのきれいなかざりをつけたうしが、なんともいます。ゆっくりと田んぼの中をあるいて田うえができるじゅんぴをしています。すると、男の人が、あいずを出しながらうたをうたい出しました。かさをかぶった女の人たちは、それにあわせていっせいにうたをうたいます。そして、みんなでなえをどんどんとうえていきます。白いふさふさのついたバチをもった男の人はくるくるとバチをまわし、たいこをたたいておどっています。たくさんの人がやっているのにうごきがぴったりとそろっているのです。なえをうえている女の人、たいこをたたく男の人たちもみんないっしょうけんめいで、中には、あせをかいている人もいました。

気がつくときろ子は花田うえをむちゅうで見っていました。はっとしてまわりを見てみると、おきやくさんたちもみんなむちゅうで花田うえを見えています。カメラでしゃしんをとっている人たちもいます。トーマス先生は、ふえの音にあわせてからだをゆらしています。みぶの花田うえを見ているたくさんの人たちは、どの人もみんなうれしそうです。ひろ子はにっこりしました。

田んぼいっぱいになえがうえられ、おまつりがおわりました。気がつくとき、ひろ子は、立ち上がってだれにもまけない大きなはく手をしていました。そして「あした、学校にいったら、おみせにいて花田うえを見ていなかったともだちに花田うえのことをいっぱいはなしてあげよう。」とおもいました。

【参考文献】

北広島町（平成 21 年）「広報きたひろしま」

北広島町（平成 21 年）「壬生の花田植」